学校法人
盛岡幼稚園
内丸学園
園報

第254号
（９月）
2020

幼児と絵本の読み聞かせ

学校法人内丸学園　理事長　坂本　洋

本年もようやく朝夕に涼しさを感じ、灯火親しむ候・読書の季節を迎えております。

しかも予期せぬコロナ禍で三密回避のため外出の自粛でお家にこもりがち、絵本の読み聞かせが一段と多くなった環境だと思います。

幼児の健やかな育ちにとって、絵本・読書は心の育ちに欠かせない栄養源と考えております。当園では、子ども達みんなが一緒に絵本を楽しむ機会として、すぐれた質の高い絵本に触れることを心がけております。

絵本の選択には、まず絵の内容、形や色使いなど発達に応じた興味や関心を予想し、絵そのものを吟味します。そして絵本に綴られる言葉、洗練された美しい言葉として豊かな表現力が育まれることを重視します。さらには幼児にとって面白く興味をもって子どもの心の世界に響く物語内容が重要です。

さて、このようにすぐれた絵本を選び子ども達が自由に手に取る環境を与えれば良いか。ですが、当園ではそれ以上に、絵本が心の育ちになることは、親や保育者が読み聞かせすること、大人が丁寧にしっかり読み聞かせがないと心の育ちが半減することを経験しております。幼児にとっての絵本は、読み聞かせが欠かせません。

読み聞かせによって、子どもの心は、頭の中で瞬間的にも自由なイメージ、想像力が働きます。またその子なりの感性、感受性がわき起こり、怒りや悲しみ、喜び共感、そしてユーモアや正義や悪などの人間として大切な感情が育まれます。毎日の読み聞かせにより子ども達の豊かな感性が育つことを体感しております。

絵本は、当園では読み聞かせに始まり、読み聞かせに終わることを信条にしております。

加えて、読み聞かせでの「聞く」力の育ちは、子ども達の「理解力」が育つことに結び付くと信じております。

理解力を育てることは、発達における聞く、覚える、知る力が土台です。そのうえに考える力、判断する力が加わり、自分なりの表現、意思の表出があって、本来の理解力に合った活動、育ちが行われると考えられております。

ですから、理解力を育てることは、まず「聞く」力の育ちが重要ですが、例えば、最近子育て相談に、どうもお話が聞けない、聞かないので困ると嘆かれる事例があります。色々と理由がありますが、乳幼児期での言葉がけの希薄、聞くことより話させることを重視するとか、映像マスメディアの刺激が多く、しっかり言葉として聞くことの関心が低い等々があり、言葉を聞くことの繰り返し、習慣が必要であることに気づきます。言葉が話せない乳児期から丁寧に語りかけ、聞く力を育むことが大事です。

また、覚える、知るについても絵本読み聞かせは、①見聞きしたことを心にとどめる（記憶する力）、②学んだり経験したりして身に付ける（習得する力）、体や心に感じること（感性の力）等がしっかり身につき深まる営みになります。

幼稚園やご家庭での絵本の読み聞かせは、とても重要な活動です。今後ともすぐれた絵本を与え心の育ちを支えたいと思います。

『絵本の読み聞かせ』

絵本とのふれあいの中で…

読書の秋がやってきました！盛岡幼稚園では日頃から、様々な場面で絵本にふれあう時間を大切にしています。今回は、年齢ごとにどのような絵本を楽しんでいるのか取り上げ、ご紹介していきたいと思います。

絵本のちから

保育部指導保育教諭　高村　和江

「これよんで…」とお気に入りの絵本を手に膝の上にちょこんと座った子と一緒に絵本を見ていると周りの子たちも集まってきます。子ども達は絵本が大好きで、園の絵本環境は保育の中でも大切にしている一つです。その中で絵本の読み聞かせは、子どもと楽しさを共有できるかけがえのない時間でもあり、子どもにとっても安心感があるようです。

0・1・2歳の時期の絵本は色彩がはっきりしているもの、食べ物や乗り物等身近な題材のものから始まり、少しずつ、ことばにリズムがあるものや繰り返しのことばがあるもの、そして成長と共に物語の世界へと楽しさの幅が広がっていきます。人気の絵本の一つに「だ・る・ま・さ・ん」シリーズがあります。お話に出てくる「だ・る・ま・さ・ん」に合わせて体を揺らし「次はどうなる？」とワクワクしながらページをめくるのを待っている…そんな可愛い姿も見られます。

絵本の読み聞かせは語彙力、集中力、想像力等、様々な力が付くと言われていますが、今の時期は何よりコミュニケーションが図れる良さがあり、心の育ちに繋がっていきます。

保護者の方々も仕事、家事、育児で忙しい毎日だと思いますが、親子で触れ合う時間はとても貴重です。そして親子で絵本を読む機会はそう長くはないと思います。ぜひお子さんとの読み聞かせの時間を作って一緒に絵本の世界の楽しさを味わってほしいな、と思います。子どもが大人になった時に絵本を読んでもらった記憶や好きな絵本を覚えていてくれたら嬉しいですよね。おやすみタイムの絵本時間がお勧めです。

まねっこ　だいすき！

Cクラス担任　石田　雪乃

「自分でやってみたい！」という気持ちが育つ時期であるとともに、「友達と同じっていいな」と一緒に遊ぶ楽しさも感じながら育っている3歳児。絵本も遊びと同様に、友達と肩を寄せ合いながら読んだり、先生に読んでもらうことを楽しみにしていたり…と、みんなで一緒にお話を聞くことが毎日の楽しみの一つになっています。

『せっせせっせ(作:花山かずみ)』という本をクラスで読んだ日がありました。この本は、子どもが小さなバケツで「せっせせっせ」と土を運び、バケツから「ポン」と出して「ペンペン」と土を固めていく場面があります。後日、園庭で砂場遊びをしていると、一人の男の子が「せっせせっせ」と言いながら、絵本に出てくる子どものように砂を掘ったり運んだりしていました。すると近くにいた子も「ポンペンペン、ポンペンペン」と言いながらスコップで砂山を作っ

『大すきな先生のおひざの上で…』0歳児

『なにが出てくるんだろう・・・』3歳児

ていました。

他にも『いいからいいから（作：長谷川義史）』のおじいちゃんの口癖を真似したり、『ふしぎなタネやさん（作：宮西達也）』のいろんな木が生える呪文「ネタネタロデネタ～」を唱えたり…。子ども達は絵本の物語や絵だけでなく、楽しいリズムの言葉が大好きです。砂場遊びの場面のように、読んだ絵本と日常の生活体験がピタッと合ったときに、子ども達は自然と絵本のフレーズを口にしています。思わず出た言葉にかわいらしさを感じつつ、絵本を通しての体験が実際の遊びにつながっているのだと驚きました。また、先生を真似て、友達やぬいぐるみに絵を見せていた子達がいたように、子ども達にとって、読んでもらった経験が大切に積み重なっているのだと実感しています。

Cクラスも十月から幼稚園の絵本の貸し出しが始まり、好きな絵本を自分で選んで持ち帰ります。ぜひ一緒に読んで、絵本の世界や親子のふれあいの時間を楽しんでみてください。どんな絵本を選ぶのか楽しみですね！

絵本を通して、これからも様々な言葉や体験を積み重ね、自分の気持ちをどんどん表現できるようになってほしいと願っています。

想像をふくらませて

Aクラス担任　村松　千尋

普段から子ども達の近くには、絵本があります。読み聞かせを楽しむ時間、じっくり一人で読む時間、友達と一緒にワイワイ見る時間・・・毎日たくさんの絵本に触れながら過ごしています。特に、『ことばあそびレストラン』『ことばあそびどうぶつえん（作・石津ちひろ／絵・石井聖岳）』のシリーズは、子ども達の大のお気に入り。あいうえお作文のような文に、クスッと笑ってしまうかわいい絵の言葉遊び絵本です。言葉のリズムや語感の面白さから「自分たちも作ってみたい」と、先生と一緒に言葉遊び絵本作りが始まりました。お花をテーマに考えていると「パンジーだったら、〝パン〟ツをはいて〝ジー〟ンズもはいた、はどう？」「面白い！いいね！」など、友達同士でアイディアを出し合いながら、絵本作りを進めていました。挿絵や表紙をつけて、いよいよ完成した絵本をAクラスのみんなに紹介すると、友達の作った絵本を喜んで見たり自分でも語呂合わせを考えてみたりと、絵本作りをした子だけでなく、クラスとしても楽しむ機会となりました。

言葉遊びに興味を持つ様子から、『これはのみのぴこ（作・谷川俊太郎／絵・和田誠）』を読んでみると、ページをめくるごとに長くなっていく文章やユーモラスな絵に大喜び。その後も、繰り返し見ている姿や友達と声に出して読んでいる姿があり、絵本の醍醐味である〝何度でも楽しむこと〟を体感していた子ども達でした。

二学期に入り、最近では帰りの集まりの時間に童話の読み聞かせをしています。紙でできたロボット・カミィ（作・古田足日／絵・堀内誠一）』は、幼稚園が舞台の物語。想像を膨らませてお話を聞いたり、毎日続きを心待ちにしたり・・・今までとは一味違う楽しみ方ができるようになってきた子ども達の成長を日々感じています。耳で聞いた物語を、大きくなった子ども達がいつか自分で読んで味わえるようになるまで、お話の世界を一緒に楽しんでいけたら、と思います。そして、子ども達の心に残る一冊に出会うお手伝いができていたら幸せです。

『好きな絵本を選んで』５歳児

『お気に入りの絵本』

子どもの遊び・生活から

「やってみよう！」

Bクラス担任　齋藤　由紀乃

毎日、汗をかきながらパワフルに遊んでいるBクラス。子ども達のパワーは無限なのかなと思うくらいの元気に驚いています。

1学期の初めは、「紙飛行機作ってちょうだい」「これ折ってちょうだい」と広告や折り紙の本を持ってきて先生に作ってもらったり、手伝ってもらったりして一緒に作ることを楽しんでいました。最近では、好きなキャラクターが持っている剣を、新聞紙で丸めて作った棒にビニールテープを巻いて色付きの剣にして、なりきって技を決めて戦いごっこをしています。「もっと色を足そうかな」とビニールテープで色を変えたり手裏剣を作って技を増やしてみたりと、イメージした物を自分なりに作って遊ぶ姿が増えてきました。自分で作るからこその思い入れや達成感を味わいながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じてもらえるようにかかわっています。私自身、最後まで手伝ってあげたくなるのですが、「自分でやってみよう！」という願いを込めて、子ども達が挑戦できるように声を掛けています。制作だけではなく、いろいろな遊びの場面でも子ども達のキラキラした瞳で挑戦する姿をこれからも大切にしていきたいと思っています。

「はじめてがいっぱいの園生活」

ふたばクラス担任　高橋　来夢

4月に新しい生活がスタートして半年が経とうとしています。入園当初は大好きなお父さん・お母さんと離れることに不安がいっぱいで泣き声の大合唱だったふたばクラスの子どもたち。少しずつ新しい環境に慣れ、今では好きな遊びを見つけてじっくりと遊ぶ姿やたくさんの笑顔を見せてくれるようになりました。また、気持ちが安定したことで動きも活発になり、風船を追いかけたり、音楽に合わせて体を動かしたりなど色々な遊びに興味を持ち、楽しんでいます。

天気の良い日には戸外に出て遊ぶ機会も増えてきました。散歩では散歩車から見える景色に興味津々の様子で、道行く車を指さしたり、声を出して喜んでいる姿も…。また、歩ける子は靴を履いて公園内を散策し、身近な自然と触れ合って遊んでいます。

生活や遊びの中で色々なことを吸収していく子どもたち。最近では自分の名前が呼ばれると手をあげる姿、手づかみで自分で食べようとする姿など…日々小さな成長を見せてくれる姿を嬉しく思います。これからもたくさんのはじめてを経験し、豊かに成長していく姿を保護者の皆さまと一緒に喜び、見守っていきたいと思っています。

『勝負だー☆』4歳児

編集後記

秋晴れが気持ちよい季節となりました。コロナ禍のなかで保育を工夫して行う毎日ですが、まだまだ続きそうです。そんな中、先日、心が躍るような出来事がありました。内丸教会員さんから、あげは蝶の卵を頂き、あげは蝶になるまでの貴重な体験をさせて頂きました。あおむしが葉っぱを食べる様子に目を輝かせ、初めて見る〝さなぎ〟にくぎ付け、そして孵化したときの感嘆の声は園内で嬉しさを共有するものでした。〝はらぺこあおむし〟の絵本そのものでした。絵本を通しての学びはもちろんのこと、実体験も幼児期には大切です。これからも絵本や園生活を通して心躍る体験をたくさんしていきたいと思った瞬間でした。

学校法人　内丸学園
幼保連携型認定こども園
盛　岡　幼　稚　園
〒〇二〇―〇〇二一
盛岡市中央通一―六―四七
TEL六二二二―二三〇一
理事長　坂　本　洋